

ダヴィンチ手術の特長

1. 術野が立体的で 広く、鮮明

立体的な3Dモニターで、術野を10倍に拡大して見られるため、細部の手技が正確に行えます。執刀医自身が患者さんの体内に入って手術をしているようだとされるほど、視界が良好です。



3Dモニターのビューア

2. 人の指先以上の 動きを実現

『ダヴィンチ』の鉗子は、手首以上の可動域と、柔軟でブレのない確かさを持ち、指先にも勝る細かな動きを可能にしています。



3. 手術中の執刀医の 負担を軽減

手ブレ防止機能や、座って手術が行えることで、執刀医の負担を軽減。長時間、高い集中力を必要とする手術を支援します。

手術支援ロボット「da Vinci Xi」

低侵襲手術を支援するダビンチの3つの機器

1. ペイシエントカート

患者さんに接続する機器。4本のアームを持ち、1本に精細な高画質の3次元内視鏡カメラを接続します。360°回転が可能な様々な形状の鉗子は人間の手以上の可動域があり、繊細な操作が可能。



2. ビジョンカート

Da Vinciの中核となる機器。ペイシエントカートから送られてくる画像からハイビジョン3D画像を作成する。3Dカメラで体内を立体的に映し、最大約10倍のズーム機能により、手術者は患部を拡大視野でとらえることが可能。



3. サージョンコンソール

術者が操作する機器で、ハイビジョン3D画像を見ながら自分でカメラを操作し、適切な手術部位を適切なズームで映し出すことができる。手ぶれ補正がされた正確な動作をロボットアームへ伝達することができ、繊細な動きが可能。従来の腹腔鏡手術でも不可能であった複雑な手術操作が可能になっている。

